

報 館 おおなだ



岡田小クラブ活動 地域の講師と一緒に

岡田小の高学年を対象としたクラブ活動が7月7日、9月22日、10月13日に行われました。地域の方々が講師として参加しているクラブが多く、子ども達が地域の方と触れ合える貴重な機会となっています。吹き矢クラブの4年生荒井康輔君は「楽しい。教え方が丁寧でとても優しい。」と笑顔で答えてくれました。先生方からは「普段専門に教えている方なので、とても教えるのが上手。外部から人が入るとい事は、子ども達にとってもいい刺激になっている。」

「学校の活動だけでは普段できないものもあってとても助かっている。」バドミントンクラブ講師の今井さやかさんは「子ども達は興味があるクラブを選んできてくれるので、とても意欲的で集中してやってくれている。限られた時間の中でも成長が感じ

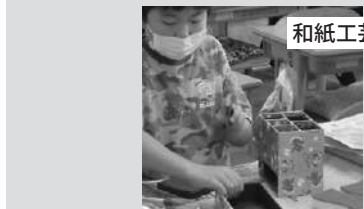
られて、教える側も嬉しくなりました。」と話してくれました。

岡田小の先生が講師を務めるクラブでは、普段はみられない先生の趣味の世界に触れる楽しい機会になっているようです。また、ダンスクラブは5年生が講師を務め、主体的にクラブ活動を行い、子どもの可能性を感じる活動になっていきました。

子ども達、地域の方々、先生方が、それぞれにより影響を受けている印象でした。コロナ禍を経験したからか、個人でもできることはあるけれど、人と人が関わることでもっと豊かなものになると、クラブ活動を通じて感じました。また、クラブ活動を機に、地域の顔の見える関係も増えていくのではないかと思います。

(取材・文 西田委員)

	クラブ名
1	手芸
2	工作
3	卓球
4	ダンス
5	パソコン
6	バドミントン
7	イラスト
8	和紙工芸
9	吹き矢
10	写真
11	なわとび
12	つり&ルアーづくり



(取材・文 三枝委員)

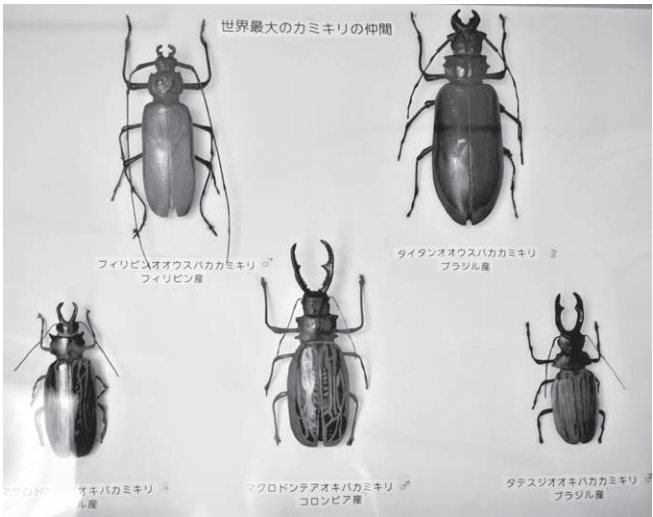
この大会から次世代の強い選手が誕生する事を期待したい。

躍が楽しみだ。

〜芥子坊主から箱根へ〜
10月12日(水) 秋晴れの下、女鳥羽中学校の強歩大会が行われた。男子7.2km女子6.3kmの急坂の登り下りのコースを全校生徒が走り切った。
この行事は伝統があり今年で72回。男子2年と3年の歴代記録保持者は、現在専修大学3年の木村暁仁さんだ。木村さんは10月15日に東京都立川市で行われた来年正月の箱根駅伝予選会にて日本人選手で1位(全体8位)の輝かしい成績にてゴールした。専修大学は木村さんの活躍もあり、来年の箱根駅伝に出場が決まった。地元出身選手の活躍が楽しみだ。

岡田ぼくとニュース
地域の達人を訪ねて
東区

『竹工房夢昆虫館』。岡田に住み始めてから、近くを通るたびにこの看板がずっと気になってきた。近所の方に話を聞くと、とても竹細工の上手な方がいらつしやると言う。かねてよりこのほつとニュースを書くときには是非取材したいと思っており、この度初めて伺った。優しい笑顔で迎えてくれたのは、胡桃澤佑治さん。訪問時も作品の制作中だった。すぐに目に入っ



たのは、昆虫の標本。私は本物かと思いい、「昆虫の標本制作もされるんですか?」と聞くと、「全部竹で作ったんだよ。」とのこと。カミキリムシ、カブトムシ、クワガタ、チョウ：形、色、質感どれをとっても本物かと思う作品ばかり。触覚や脚は、ぴつたり形の竹を探して使い、加工はしていないという。作品の素晴らしさに、本当に驚いた。1つの作品ができるまで短くても1週間以上はかかるそう。また、作品と作業道具が整然と並べられている工房内の空間そのものが、とても穏やかで素敵だった。

竹細工を始めたのは60歳を過ぎてからで、20年くらいになるといふ。ひとつのことにじっくりと向き合い、できることをこつこつと積み重ね、身近なものから素晴らしい作品を作り出し、感謝の気持ちをお忘れないう。胡桃澤さんの佇まいから、色々なことを感じた。作品だけでなく、胡桃澤さんにお会いしたことで新しいことを教えてもらったと思う。
(東区 西田さやか)

紅葉の乗鞍三滝ウォーキング

岡田公民館主催、自然に親しむ講座3回目の乗鞍三滝ウォーキングが10月11日に実施されました。



当日は朝から快晴。ウォーキング日和になり、岡田公民館を出発し松本トンネルを出た所で朝の渋滞にはまり、そこを抜けると順調に日程どおりのながれになりました。

乗鞍高原の三本滝ゲート到着、歩くこと約20分、昨日の雨で遊歩道の板、木の根っこが濡れ滑りやすい状況で案内の方よりお姫様歩きで行くようにと指示があり、昔お嬢様は思い出したようです。三つの滝が一本の川に合流する周りの紅葉が始まりきれいでした。

善五郎の滝、滝見台からの乗鞍岳バックに記念写真、滝の背景乗鞍岳は絵になる景色そのものでした。滝壺近くでは霧状になり、参加者の中には「マイナスイオン浴びて行くだ」「美しくなるさ」「健康に良い」と言っている人もいました。

番所大滝は入口よりコンクリートの階段で沢へ降り、帰り数えたら約240段けっこう辛い上り坂でした。流量も有り乗鞍高原の溶岩台地を形成した岩肌が横に見られ迫力満点でした。

老若男女が一日公民館行事で集うことの楽しさ、コロナに負けない思いで、次回はあなたも参加して下さい。
(体験取材 柳澤委員)

編集雑記

神沢の扇谷さんも書いてくださいますが学校イベントなど少しずつ戻ってきています。また活気のあるイベントなど今後期待したいです。(A)

令和4年8月21日、暑い太陽の下、伊勢町通りから松本城にかけて、OMFパレードが開催された。そこには、36団体1500人の小中高生、一般団体が参加した。松本シティーマーチングバンドの華やかなファンファーレで開幕し、大勢の観客の方々に拍手で見送られながら、各団体が汗を拭いながら沿道を楽しみ音楽でいっぱいにした。

今から2年前、令和2年2月27日、コロナウイルス感染症拡大防止策の一環として、

突然の一斉休校となった。その時、学校から音楽が消えた。4月から徐々に分散登校で子どもたちが登校してきたが、歌も合奏も禁止、放送室は密になるため、時間の区切りはすべてチャイム。音楽会・運動会は中止。吹奏楽や、合唱部の活動も一切禁止となった。

そんな状況から、近年ようやく規制緩和が進み、徐々に音楽会や運動会も感染対策をとりながら開催できるようになってき

た。そして、やっと今年度OMFパレードも3年ぶりに開催されることになった。このイベントは私も小中学生のころに参加し、今年で30周年を迎える、楽都松本が繋ぐ伝統文化のひとつだ。コロナ禍で、音楽が遠ざかってしまったからこそ、当たり前に行われていたこうしたイベントの大切さが心に染みる。これからも、松本に根付いている大切な文化を残していくってほしい。

生活雑記
戻りつつある、日常の音楽
神沢 扇谷 沙耶香